令和6年度厚生労働省科学研究費補助金(障害者政策総合研究事業)
(分担)研究報告書
就労定着支援の質の向上に向けたマニュアルの開発のための研究(23GC1010)

自閉スペクトラム症(ASD)者に対する米国の職場定着支援に関する調査

研究分担者　　縄岡好晴　明星大学人文学部福祉実践学科

【研究要旨】

本研究では、米国における発達障害者、特に自閉スペクトラム症（Autism Spectrum Disorder：ASD）を有する者に対する職場定着支援の実践事例を収集し、我が国の支援の質向上に向けて、その知見を整理することを目的とした。

対象は、米国ノースカロライナ州における TEACCH Autism Program の Supported Employment 部門による取り組み、および新たに開発された支援モジュール「TEAM WORKS」ならびに LiNC-IT プログラムであり、2021 年度のカンファレンス参加と、2024 年度のディレクターへのヒアリング調査を通じて、定性的データを収集した。データ分析では、支援理念、方法論、運用体制、効果検証に関する観点から情報を整理し、比較検討を行った。

調査の結果、ノースカロライナ州では Employment First 政策に基づき、障害者の就労機会拡大と長期的な職場定着支援が制度的に推進されていることが明らかとなった。LiNC-IT プログラムは、ASD 当事者に対する専門的職業訓練と企業インターンシップを効果的に組み合わせ、職場適応と定着を促進する仕組みを有していた。また、TEAM WORKS は、雇用主向けに合理的配慮や職場内支援技法を段階的に教育することで、ニューロダイバーシティに配慮した組織文化醸成に寄与していた。

これらの結果から、ASD を有する労働者の職場定着を支援するには、採用時の合理的配慮に留まらず、就労後の継続的な環境調整、支援提供、キャリア形成支援を統合的に行う体系の構築が不可欠であることが示唆された。

A.研究目的

本研究は、諸外国における発達障害者、とりわけ自閉スペクトラム症（Autism Spectrum Disorder：以下、ASD）を有する者に対する職場定着支援の事例を収集・分析し、実践的知見を体系化することを目的とする。

ASD は神経発達症群に分類され、DSM-5 においては、(1)社会的コミュニケーションおよび対人相互作用における持続的障害、ならびに(2)限定された反復的な行動、興味、活動の様式を主要な診断特性とする障害と定義されている。近年、診断基準の変容や多様性を尊重する社会的潮流を背景に、ASD と診断される者の数は増加傾向にあり、社会的関心も高まっている。中でも、就労領域においては、個々の特性を適切に理解し、それに即した支援を提供することが喫緊の課題となっている。

本報告では、米国ノースカロライナ州で展開されている「TEACCH Autism Program」

における職場定着支援の取り組みに焦点を当てる。同プログラムは、世界的にも高い評価を受けており、その支援理念および実践方法論は、他国における支援モデル構築にも影響を与えている。

TEACCH Autism Program は 1972 年に設立され、ASD 当事者およびその家族に対する包括的支援体系を確立してきた。その特筆すべき特徴は、個別ニーズに応じた柔軟な支援提供、構造化を基本とする環境整備、家族支援との統合的実施、ならびに地域資源との連携促進にあり、こうした包括的アプローチは国際的にも高く評価されている。

本研究では、特に新たに開発された職場定着支援プログラム「TEAM WORKS」および地域における支援ネットワーク構築事例に着目し、その理念、構造、運用実態を詳細に検討する。

B.研究方法

1. 対象

調査対象は、TEACCH Autism Program の Supported Employment 部門において開発・実施された「TEAM WORKS」プログラムに関する情報とした。

2021 年度に実施された TEACCH カンファレンスに参加し、そこで発表された内容および配布資料を精査したほか、2024 年度に TEACCH Employment Services のディレクターである S. Michael Chapman 氏へのヒアリング調査を通じ、一次情報の収集を行った。

2. データ収集方法

カンファレンス参加を通じた講演聴講、配布資料の収集、担当者へのインタビューを実施し、定性的データを収集した。資料分析に際しては、支援理念、方法論、運用体制、効果検証に関する項目を整理し、比較検討を行った。

3. 倫理的配慮

本研究は、公的に公開された資料および公的立場にある担当者へのヒアリングに基づくものであり、個人情報を直接扱うものではないため、倫理審査を必要とする研究には該当しない。情報の取扱いには十分に配慮し、研究目的以外の用途には使用していない。

C.研究結果

1. ノースカロライナ州における就労支援政策

ノースカロライナ州は、1990 年代以降、製造業中心の経済構造から、ハイテク産業、教育、医療サービスなど知識集約型産業への転換を進めてきた。州内に位置するリサーチ・トライアングル・パーク（Research Triangle Park）を中心に、企業・大学・研究機関の連携によるイノベーション拠点づくりが進められ、産業構造の変化とそれに伴う労働市場の高度化が急速に進展した。このような変化に対応すべく、州政府は教育と職業訓練の強化を重要施策として位置付けた。

特に、1983 年に設立されたノースカロライナ・ビジネス委員会（North Carolina Business Committee for Education:NCBCE）は、州知事直属の組織として、教育改革と産業界との橋渡しを担ってきた。

NCBCE は、若年層に対するキャリア教育、職業訓練、企業インターンシップの提供を通じ、州全体の人的資本の底上げを目指し

て活動している。さらに、近年においては、ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）推進の潮流を背景に、障害者を含む多様な人材の社会参加支援が、経済成長戦略の一環として認識されるようになった。

特に ASD を有する若年層は、高度な集中力や専門技術への適応力を持つケースも多く、これらの潜在能力を労働市場で活かすことが、企業側にとっても大きなメリットとなりうると理解されるようになった。

こうした背景から、NCBCE は障害者就労支援にも積極的に取り組んでおり、企業と教育機関が連携して、ASD を含む多様な若者たちが労働市場への移行を円滑に果たせるよう支援体制の強化を図っている。これらの取り組みは、単一機関によるものではなく、複数の地域の関係機関が連携するネットワーク型支援体制として構築されている。その主な構成機関を表 1 に示す。

表 1 地域の関係機関一覧

North Carolina Business Committee for Education
Autism Society of North Carolina
Capital Area Workforce Development
NC Office of the Governor
NC Office of State and Human Resources
ND Department of Health and Human Services-Vocational Rehabilitation
NC Council of Developmental Disabilities
UNC TEACCH Autism Center

2. LiNC-IT プログラムの概要

LiNC-IT （Linking Individuals with Needs in North Carolina through Information Technology）は、2018 年にノースカロライナ州知事ロイ・クーパーとノースカロライナ・ビジネス委員会（NCBCE）によって設立された、ASD を有する若年層および初期キャリア段階の人々を対象とした就労支援プログラムである。州内の政府機関、非営利団体、民間企業が密接に連携し、ASD 当事者が適切な雇用機会を得て職場に定着できるよう支援することを目的としている。従来の画一的な採用プロセスでは見落とされがちな多様な才能を持つ人材に着目し、特に IT 分野を中心とする職域へのスキルマッチングに重点を置いている点が、本プログラムの大きな特徴である。

LiNC-IT では、ASD 当事者が職場で成功するために必要なスキルを体系的に習得できるよう、技術訓練や職業準備教育が提供されている。具体的には、業界認定資格の取得支援、履歴書の作成指導、面接準備、ビジネスマナーの習得といった就労前トレーニングに加え、職場内での行動支援なども含まれる。さらに、州内の企業や行政機関における有給インターンシップの機会が用意されており、参加者は実務を通じて現場の業務や職場文化に触れながら、自身の能力を実践的に高めることができる。

就労後も、参加者と雇用主の双方に対して継続的なフォローアップが行われており、課題への対応、業務調整、職務定着に向けたコーチングなど、個別ニーズに応じた支援が継続される。

プログラム開始以降、これまでに 100 名を超える ASD 当事者が LiNC-IT を通じて企業での雇用に成功しており、その多くが定着している。参加者は、自身の強みである注意深さ、持続的な集中力、正確な作業遂行力を活かし、職場で高い評価を受けている。雇用主側も、多様な人材の採用が組織全体のイノベーションやパフォーマンス向上に資

するとして、本プログラムの価値を肯定的に受け止めている。

LiNC-IT は、ノースカロライナ州保健福祉省(NCDHHS)内の職業リハビリテーション部門(EIPD)による資金提供を受け、複数の専門機関と連携して運営されている。

主なパートナー機関には、UNC TEACCH Autism Center および Autism Society of North Carolina があり、専門的な支援サービスや職業訓練の提供を担っている。また、参加企業としては、バンク・オブ・アメリカ、JP モルガン、レノボ、ウェルズ・ファーゴ、UNC ヘルスケアなどが名を連ねており、それぞれの企業が ASD 当事者の特性に配慮しつつ、彼らの能力を職場で発揮できるよう支援体制を構築している。

政策的背景として、本プログラムはノースカロライナ州における「Employment First」政策の実現を支える一環として位置づけられている。Employment First は、障害を持つ人々が第一に雇用されるべき存在であるという理念に基づき、すべての個人に対して公平な賃金と雇用機会を保障することを目的としている。LiNC-IT はこの理念を具体的な実践へと転換する先駆的事例とされており、雇用の公平性と神経多様性の尊重を両立させる持続可能なモデルとして注目されている。

LiNC-IT は、ASD 当事者の雇用促進と職場定着を多面的に支援する包括的プログラムであると同時に、企業・地域社会・政策を巻き込んだ全州的な取り組みでもある。専門的な訓練、実践的な経験、継続的なサポートを通じて、ASD 当事者の社会的・経済的自立を後押しするとともに、地域経済の活性化と社会的包摂に大きく寄与している。

3.支援モジュール「TEAM WORKS」

TEAM WORKS は、TEACCH Autism Program が開発した企業向けのオンデマンド型オンライン学習プログラムであり、ASD を有する従業員を職場で効果的に支援するための知識と実践的スキルの習得を目的として設計されている。本プログラムは、雇用主や職場の管理職・同僚を対象とし、ASD の特性に基づく理解と、合理的な職場環境の整備を推進するものである。

ASD 者を雇用・定着させるにあたっては、本人の適応力のみならず、雇用側の理解と配慮が極めて重要である。雇用主には、ASD の特性や文化的背景を理解したうえで、交通手段の確保や社会的要求への対応といった、職務の継続に不可欠なアコモデーション(合理的配慮)を提供する責任がある。こうした背景のもと、ASD に対する理解を深め、職場内での持続可能な支援体制を構築するためのツールとして、TEAM WORKS は開発された。

TEAM WORKS は、ASD の学習スタイルおよび就労現場でよく見られる支援方略の基本的な概要を提供しており、短時間のセッションで構成されたバーチャルオンデマンド型のトレーニングを通じて柔軟に学ぶことができる。トレーニングを通じて、企業側は個別ニーズに応じた職務割り当て、職場の構造化、感情調整支援、社会的スキルの補完など、より包括的かつ実効的な対応が可能となる。

具体的なモジュールは 9 項目で構成されており、各モジュールが段階的に ASD に対する理解と実践的支援のスキルを深めていく構成となっている(表 2 参照)。

初期段階ではニューロダイバーシティの

意義や自閉症の学習スタイルに関する基礎的理解を促し、中盤からは従業員の配置、支援、管理技法といった実務的内容に焦点を移す。終盤では、ストレス対処や成功事例の共有を通じて、学びの定着と現場への応用を促進する構成となっている。

このようなトレーニングは、単に雇用主や支援スタッフの知識を増やすだけでなく、職場全体のニューロダイバーシティ対応力を高める上で不可欠である。加えて、面接プロセスの調整や業務内容の明確化、ピアメンター（職場内支援者）の育成といった実践的対応を通じて、ASD 当事者がその能力を発揮しやすい環境整備が求められる。

特に ASD 者は、独自の視点と高い集中力、問題解決能力を備えており、適切な配置と支援がなされることで、組織にもたらす価値は大きいとされている。さらに、一般的な新入社員と比較しても、雇用にかかる追加的コストがほとんど発生しないことも報告されており、合理的配慮の提供は経済的負担の大きな増加を伴わない現実的な対応策である。

TEAM WORKS は、ASD 当事者の雇用を一過性の取り組みで終わらせず、持続可能な職場定着の基盤づくりを促進するための先進的かつ実践的な教育ツールであるといえる。

表2 TEAMWORKS のモジュール

モジュール1: ニューロ・ダイバージェントな自閉症の人を雇用する利益
モジュール2: 自閉症と関連した学習の違いについて理解する
モジュール3: 自閉症の従業員との面談
モジュール4: 自閉症の従業員を配置する
モジュール5: 視点取得：社会的コミュニケーションを理解し、社会的コミュニケーションに対応する
モジュール6: 自閉症の従業員が必要とする支援を得られるようサポートする
モジュール7: 組織管理と時間管理を支援する
モジュール8: 職場でのストレスや不安に対処する
モジュール9: サクセスストーリーとその他

D.考察

職場定着支援に関する考察

1-1. 環境的障壁の除去と職場適応支援の意義

障害者の職場定着を促進するためには、個々の特性に応じた環境調整、すなわち環境的障壁の除去が不可欠である。作業環境や業務プロセスにおいて障害特性に適合した支援を行うことで、障害者のストレスや業務遂行困難を軽減し、本来の能力を十分に発揮できる条件が整えられる。

特に、ASD を有する労働者に対しては、職務の明確化、視覚的支援ツールの導入、コミュニケーション様式の調整など、具体的かつ継続的な職場支援が重要となる（Austin & Pisano, 2017）。

このような支援の実装は、単なる雇用の

達成にとどまらず、障害者自身の職務満足度向上と組織内での持続的なキャリア形成を支える基盤となる。

1-2. 長期的職場定着を支える支援体系の必要性

職場定着支援の質を向上させるためには、初期段階の職務適応支援に加え、就労継続期間中の業務調整、キャリアパス形成支援、心理社会的サポートなど、包括的かつ長期的な支援体系の構築が求められる。

障害者が組織内で役割を拡大し、自立的にキャリアを歩むためには、単なる就職後支援では不十分であり、継続的な伴走型支援が不可欠である。

この点において、組織全体が障害者の成長を支える文化を醸成し、個々の発達に合わせた柔軟な職務設計と支援提供を行うことが、真に効果的な職場定着支援であるといえる（Hedley et al., 2018）。

1-3. ノースカロライナ州における就労支援政策と職場定着支援の制度化

ノースカロライナ州においては、Employment First 政策に代表されるように、障害者の就労機会拡大と職場定着支援を州全体の優先施策として推進している。

特にこの政策は、障害者が労働市場において持続的に活躍できる環境を整備することを目標に掲げており、合理的配慮の提供、支援者の育成、企業文化改革を三位一体で推進している点に特徴がある。

このような包括的政策枠組みは、障害者の短期的雇用にとどまらず、長期的な職場定着・キャリア形成を支えるうえで不可欠な土台となっている。

1-4. LiNC-IT プログラムにみる職場定着支援の具体的実践

LiNC-IT プログラムは、ASD 当事者に対する就労支援と職場定着支援を体系的に提供するモデルケースである。同プログラムでは、専門的職業訓練、有給インターンシップの提供、就労後の継続的な支援を通じて、ASD 当事者が労働市場に参入し、長期にわたり職場で活躍できるよう支援している。

特筆すべきは、インターンシップ段階から職場適応スキルの育成と企業側へのサポート体制の整備を同時に行っている点である。これにより、職場環境と本人の特性との間に生じがちなミスマッチを事前に最小化し、就労後のスムーズな定着を促進している。また、LiNC-IT プログラムを通じて雇用された ASD 当事者は、注意深さや正確な業務遂行能力を高く評価され、多くの企業において継続雇用が実現している。

この成果は、職場定着を見据えた包括的支援が、障害者本人と企業双方にとって実質的な利益をもたらすことを実証している。

1-5. 支援モジュール「TEAM WORKS」による定着支援スキルの強化

TEAM WORKS は、ASD 当事者と共に働く雇用主・マネージャー向けに、実践的な支援スキルを提供するオンライン型トレーニングツールである。

特に、自閉症特性への理解、職務環境の構造化、感情調整支援、ストレス対処法といった職場定着に直結する支援技法が体系的に学べる設計となっている。

短時間セッション型のラーニングスタイルは、多忙なビジネス現場に適合しやすく、企業内での普及と実践を促進している。ま

た、ニューロダイバーシティの概念を組織内に浸透させることを通じて、障害特性に基づく柔軟なマネジメントスタイルの確立に寄与している。

結果として、TEAM WORKS を導入した企業では、ASD 当事者の職場定着率が向上し、組織全体のダイバーシティ対応力も強化される傾向がみられている。

以上の点から明らかになるように、職場定着支援において重要なのは、採用段階の合理的配慮にとどまらず、就労後の環境調整、支援提供、キャリア発展支援を一貫して行う包括的な支援体系の整備である。

ノースカロライナ州の政策、LiNC-IT プログラム、TEAM WORKS モジュールはいずれも、障害者が「単に働く」だけでなく、「職場で成長し続ける」ことを可能にする実践例であり、今後の職場定着支援の標準モデルとなる可能性を示している。

E.結論

本研究は、諸外国、特に米国ノースカロライナ州における発達障害者、とりわけ ASD を有する者に対する職場定着支援の実践事例を収集・分析し、支援の質向上に向けた知見を整理することを目的として実施された。

調査の結果、ノースカロライナ州は産業構造の転換を背景に、Employment First 政策をはじめとする障害者雇用促進政策を積極的に推進しており、就労機会の拡大と長期的な職場定着支援の制度化に取り組んでいることが明らかとなった。特に、ノースカロライナ・ビジネス委員会（NCBCE）を中心とした企業・教育機関・地域機関の連携により、ASD を含む多様な人材の労働市場参入が体系的に支援されている点が特徴的である。

支援実践の具体例として、LiNC-IT プログラムは、ASD 当事者に対する専門的職業訓練、実践的インターンシップ、有給就労機会の提供、ならびに就労後の継続支援を通じ、本人の特性に応じた就労マッチングと職場定着を効果的に促進していた。本プログラムは、ASD 当事者の強みを活かす職場設計と、企業側の受け入れ態勢強化を同時に推進する点において、高い実効性を示している。

また、TEACCH Autism Program が開発した「TEAM WORKS」モジュールは、企業向けに自閉症特性に基づく支援方略を短時間で学べるオンデマンド型トレーニングを提供しており、職場定着支援に不可欠な支援スキルの普及と組織文化の変革に寄与している。ニューロダイバーシティの視点を企業内に根付かせるための実践的ツールとして、今後の普及が期待される。

以上の結果から、ASD 当事者の職場定着支援においては、採用時の合理的配慮提供にとどまらず、就労後の支援継続、職場環境の柔軟な調整、本人のキャリア発展を見据えた長期的支援体系の構築が不可欠であることが確認された。

特に、障害者本人の特性理解と企業側の組織改革を両輪で推進することが、持続可能な就労定着を実現する鍵であり、単なる個別支援ではなく、政策、教育、企業実践を統合した多層的支援モデルの構築が求められる。

ノースカロライナ州における LiNC-IT プログラムおよび TEAM WORKS の事例は、日本においても、今後の発達障害者の職場定着支援施策を検討・展開する際の有力なモデルとなる可能性を有している。

今後は、これらの知見を踏まえた上で、地域・文化的背景に即した職場定着支援の最適化が課題となるであろう。

F. 健康危険情報

該当なし

G.研究発表

該当なし

H.知的財産権の出願・登録状況

１．特許取得　該当なし

２．実用新案登録　該当なし

３．その他　該当なし

引用参考文献

【文献】

Austin, R. D., Pisano, G. P. (2017) Neurodiversity as a competitive advantage, Harvard Business Review, 95(3), 96-103.

Hedley, D., Uljarevic, M., Cameron, L., Halder, S., Richdale, A., Dissanayake, C. (2018) Employment and adults with autism spectrum disorders: Challenges and strategies for success, Journal of Autism and Developmental Disorders, 48(10), 3393-3408.

Mesibov, G. M., Shea, V., Schopler, E. (2004) The TEACCH approach to autism spectrum disorders, Kluwer Academic Publishers / Springer Science + Business Media, New York.

Oliver, M. (1996) Understanding Disability: From Theory to Practice, Macmillan.

【ウェブサイト】

LiNC-IT, https://linc-it.org/, (参照日: 2025 年 4 月 15 日).

North Carolina Business Committee for Education (NCBCE), https://ncbce.org/, (参照日: 2025 年 4 月 15 日).

TEACCH Autism Program, University of North Carolina, TEACCH Strategic goals, https://teacch.com/about-us/mission-st/, (参照日: 2025 年 4 月 15 日).